



薪の窯を焚く理由

20世紀に入って急速な地球温暖化が進んでいます。主な原因が化石燃料の使用による二酸化炭素の増加です。このまま温暖化が進むと2050年では温度が2℃、2100年には最大4.8℃の上昇が予測されています。その時、海面上昇、食糧不足、生態系の損失等、多くの危機が懸念されています。

津軽金山焼は二酸化炭素の増加を抑えるためカーボンニュートラルの薪窯で製作を行っています。



※カーボンニュートラル

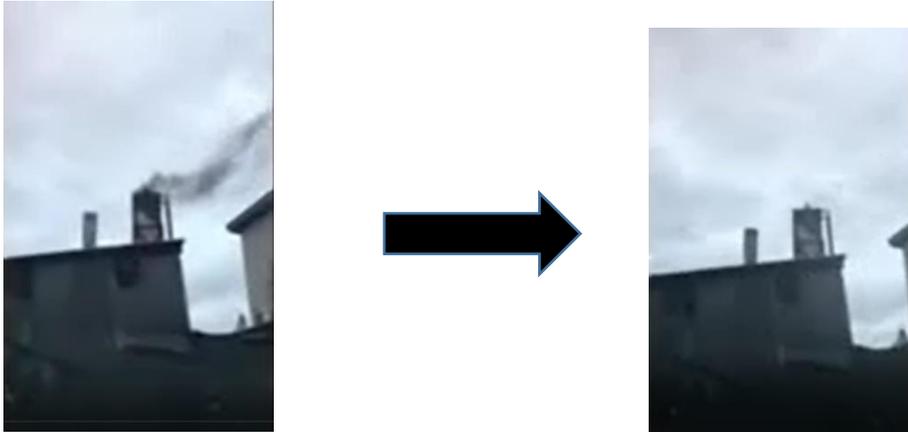
植物のからだ（茎・葉・根など）は全て有機化合物（炭素原子を構造の基本骨格に持つ化合物）で出来ています。その植物が種から成長するとき、光合成により大気中の二酸化炭素の炭素原子を取り込んで有機化合物を作り、植物のからだを作るため、その植物を燃やして二酸化炭素を発生させても、空気中に排出される二酸化炭素の中の炭素原子はもともと空気中に存在した炭素原子を植物が取り込んだものであるため、大気中の二酸化炭素総量の増減には影響を与えない。そのため、カーボンニュートラル（二酸化炭素=炭素循環量に対して中立である）と呼ばれる。

三次燃焼によるCO2削減を目指して

さらに二酸化炭素を減らすために金山焼では二次燃焼、三時燃焼によるカーボンマイナスに取り組んでいます。

これまでの取り組み

2019年 10月 二次燃焼を行い煙の排出を少なくする実験を行いました



煙道のエアダンパーの活用により二次燃焼を起こします。煙の量が10/1ほどに減少しました

2022年 1月 三次燃焼の実験
煙道部分で再度煙を燃焼させる。
(目標は太陽光発電した電力で燃焼する事)

2022年 1月 窯焚きの勉強会も行っています
【黒煙を出さないようにする焚き方について】
【煙突の様子をみながら焚く】

2022年 1月 窯を焚いてる人が状態をいつでも把握できるようカメラを設置



窯焚き中、煙の様子がスマートフォンでいつでも見れます